

#### IV. 普及・公開活動の記録

## 埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行っている。

令和5年度は、春には愛知県埋蔵文化財調査センターと共催して新出土品展「やとみ新発見展」2023」と「春の特別公開2023」を行った。また、秋には『名古屋城三の丸遺跡展』と題し、愛知県埋蔵文化財調査センター資料管理閲覧室での展示を行った。なお愛知県埋蔵文化財調査センターは、同時期に名古屋城三の丸遺跡出土品4点の特別公開を行った。

### 春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展」2023

1. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター
2. 会期 令和5年4月10日(月)～4月21日(金)
3. 内容

○展示 ① 2F収蔵庫C 「やとみ新発見展」2023

令和4年度に本発掘調査Bを実施した17遺跡の出土遺物と写真パネル等を展示。

② 2F資料管理閲覧室 「発掘された愛知の城 AGAIN」

令和3年度「秋の埋蔵文化財展」で行った「愛知の城」の展示の一部を復活させた。

○配布資料 「埋文桜ニュース」

令和4年度調査の概要説明および本年度イベント案内、同時開催の「春の特別公開」(愛知県埋蔵文化財調査センター)の展示解説を掲載した。期間中に配布した部数は77部。

4. その他

新型コロナウイルス感染症対策のため、弥富市で例年開催されてきた「やとみ桜まつり」は中止。当センターも体験などの多人数が近接するイベントは中止となった。期間中の総入場者数は86名。



▲春の埋蔵文化財展 チラシ



▲「埋文桜ニュース」

## 秋の埋蔵文化財展「名古屋城三の丸遺跡展」

1. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター 資料管理閲覧室

2. 会期 令和5年10月30日(月)～11月30日(木)

3. 実施体制

「名古屋城三の丸遺跡展」(公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター)

「秋の特別公開2023」(愛知県埋蔵文化財調査センター)

4. 目的

愛知県埋蔵文化財センターは、これまでに8回に渡って名古屋城三の丸遺跡における発掘調査を実施してきた。今回、約15年ぶりに「名古屋第4地方合同庁舎整備等事業」による発掘調査が実施されるにあたって、普段収蔵されている過去の発掘調査の出土品を再び見直すことを目的とした。

5. 内容

「名古屋城三の丸遺跡展」では1988年度の「愛知県図書館地点」の調査から2006～2007年度の「地方簡易裁判所合同庁舎地点」の調査までの成果を踏まえ、「弥生時代」「古墳時代」「古代」「那古野城期」「名古屋城三の丸期」「近代(陸軍兵営時代)」の時代ごとに遺物を展示し、それぞれに出土した遺構の解説を付した。

6. 関連イベントなど

同時に開催された「秋の特別公開2023」に関連した講演会・イベントを11月3日に実施した。演題・演者は次の通り。講演会には37名の参加があった。

・「名古屋城三の丸遺跡を掘る」城ヶ谷和広氏(愛知県埋蔵文化財調査センター)

・「名城公園遺跡の調査成果」永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)

同日に一般向けの体験重視の催しとして、拓本体験(埋蔵文化財調査センター担当)、城輪投げ(埋蔵文化財センター担当)を実施し、参加者は30名であった。

なお、「秋の埋蔵文化財展」開催期間中の11月24日(金)、および11月27日(月)は「あいち県民の日」に関連する「県民の日学校ホリデー」として県内の公立学校が休業し、保護者の有給休暇の取得が推奨されたことに合わせて、「秋の埋蔵文化財展」(埋蔵文化財センター)、「秋の特別公開」(埋蔵文化財調査センター)の展示解説を両日の午前・午後の計4回実施し、計17名の参加があった。

上記の講演会、展示解説を含めた「秋の埋蔵文化財展」開催期間中の入場者の総数は143名であった。

(鈴木恵介)

## 財団設立 50 周年記念事業

令和5年度 秋の埋蔵文化財展

## 名古屋城三の丸遺跡展

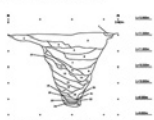
開催日時：令和5年10月30日(月)～11月30日(木) 午前9時～午後4時  
11月3日(金曜・祝日)を除く土・日・祝日は閉館(入場無料・申込不要)

展示会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階 資料管理閲覧室

秋の埋蔵文化財展 2023 では、「名古屋城三の丸遺跡展」と題して、愛知県埋蔵文化財センターが1988年度から長年行ってきた発掘調査の成果を振り返り紹介します。  
名古屋城三の丸遺跡では、近世の名古屋城三の丸としての遺構・遺物のみならず、下層では旧石器時代から中世・戦国時代にかけての遺構・遺物が検出され、複合的な遺跡としての性格が色濃くあります。  
今回は、名古屋城三の丸遺跡の古代、那古野城期中世・戦国時代、名古屋城三の丸期の江戸時代の3つの時代の発掘調査の成果を中心に展示を行います。



戦国時代(16世紀)の堀跡図 (80550-2006年度調査)



左の堀(80550)の報告書での掲載「名古屋城三の丸遺跡」



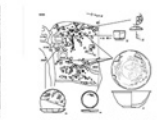
戦国時代(16世紀)の堀跡図 (80550-2006年度調査)



江戸時代(19世紀前期)の土坑(49250)出土青磁鉢



2006年度調査江戸時代(19世紀前期)の土坑(49250)



土坑(49250)の青磁鉢出土状況の掲載「名古屋城三の丸遺跡」

同時開催

## 秋の特別公開 2023

(愛知県埋蔵文化財調査センター主催)

収蔵品の中から逸品を選んで展示します。

展示予定

色絵婦人像(平成2年度調査出土)

原始灰輪双耳瓶(昭和63年度調査出土)他

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階ホール

お問合せ先

愛知県埋蔵文化財調査センター TEL0567-67-4164

展示予定出土品(都合により変更されることがあります)



色絵婦人像(平成2年度調査出土)

原始灰輪双耳瓶(昭和63年度調査出土)

原始灰輪双耳瓶(昭和63年度調査出土)



秋の埋蔵文化財展 展示会場



秋の埋蔵文化財展 講演会

秋の埋蔵文化財展 チラシ

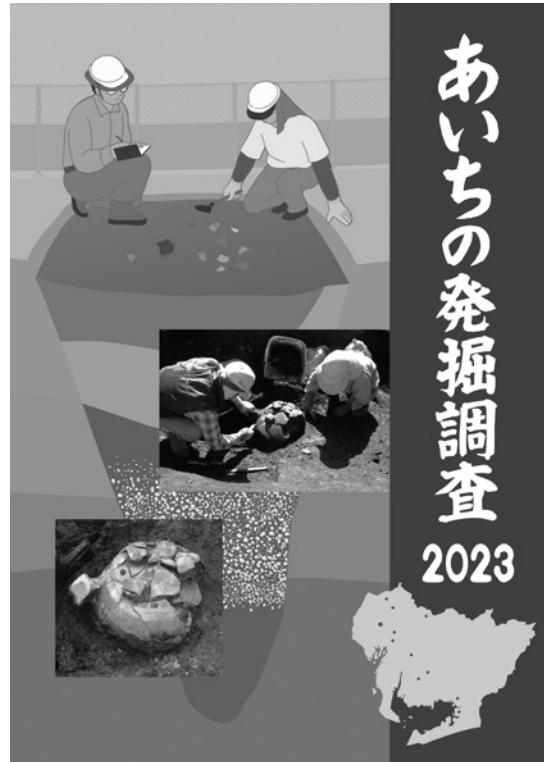
## あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2023」

愛知県民文化局文化財室の委託事業として、あいち朝日遺跡ミュージアムで企画展「あいちの発掘調査 2023」を実施した。

本展では、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示した。今回は、扶桑北窯跡（瀬戸市）、天王塚遺跡（小牧市）、宮後城跡（江南市）、名城公園遺跡（名古屋市北区）、熱田 B 遺跡（名古屋市熱田区）、池田遺跡（岡崎市）、井ヶ谷古窯跡群（刈谷市）、中狭間遺跡（安城市）、境松・若宮遺跡（豊橋市）、史跡 三河国分寺跡（豊川市）の 10 遺跡を紹介した。また、朝日遺跡からは、赤と黒を配色した珍しいパレス・スタイル壺を展示し、関連講演会では壺の文様について天文学の観点から新たな解釈などを提示した。印刷物としては、ポスター・チラシ・パンフレットの企画・編集とガイドブックの作成を行った。



「あいちの発掘調査 2023」チラシ



「あいちの発掘調査 2023」普及本表紙



企画展示室の展示状況



成果報告会Ⅰの開催状況



## 1 企画展

- (1) 会期 2024年1月20日(土)から3月10日(日)まで  
休館日(毎週月曜日 ※2月12日(月・祝)は開館し、翌13日(火)は休館。
- (2) 開館時間 午前9時30分から午後5時まで
- (3) 会場 あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(企画展示室)

## 2 関連講演会

- (1) 講演会・トークセッション「斜め上から見たパレス・スタイル土器」  
(清須市教育委員会共催事業)
- ①日 時: 2024年2月25日(日) 午後1時30分から午後4時30分まで
- ②場 所: 清洲市民センター(ホール)
- ③講 師: 北條芳隆氏(東海大学教授)  
講演「パレス・スタイル壺に描かれた弥生時代の暦」  
原田 幹氏(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸課長)  
報告1「朝日遺跡から見たパレス・スタイル土器」  
岩淵 寛氏(愛知県陶磁美術館主任陶芸指導員)

④参加費: 無料

⑤当日参加人数 115名

### (2) 発掘調査最新成果報告会Ⅰ「三河の遺跡」

- ①日 時: 2024年1月27日(土) 午後1時から午後4時まで
- ②場 所: あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)
- ③講 師: 村上 昇氏(豊橋市文化財センター)「境松・若宮遺跡」  
鈴木涼平氏(豊川市教育委員会)「史跡 三河国分寺跡」  
池本正明(愛知県埋蔵文化財センター)「中狭間遺跡」  
河野あすか氏(刈谷市歴史博物館)「井ヶ谷古窯跡群」

④参加費: 無料

⑤当日参加人数 46名

### (3) 発掘調査最新成果報告会Ⅱ「尾張の遺跡」

- ①日 時: 2024年2月10日(土) 午後1時から午後3時30分まで
- ②場 所: あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)
- ③講 師: 河合君近氏(公益財団法人瀬戸市文化振興財団)「扶桑北窯跡」  
田中芳樹氏(小牧市教育委員会)「天王塚遺跡」  
永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)「名城公園遺跡」

④参加費: 無料

⑤当日参加人数 48名

(永井宏幸)

## あいち朝日遺跡ミュージアム ナイトミュージアム・体験! 弥生ムラへの出店

あいち朝日遺跡ミュージアムでは様々なイベントが開催されている。今年度は8月19日(土)の午後4時~午後8時に『ナイトミュージアム』・3月2日(土)の午前10時~午後4時30分に『体験! 弥生ムラ』が開催された。同施設の指定管理者から依頼を受け、ナイトミュージアムではミュージアム本館の体験学習室で銅鐸形のべっこう飴による鋳込み体験のワークショップを出店した。参加人数は26人であった。『体験! 弥生ムラ』では「弥生王族の衣装を着よう」を実施した。(樋上 昇)

## 連続歴史講座

## 1. 目的

愛知県内外の考古学に関する成果などを広く一般県民に公開するための歴史講座を開催する。

## 2. 場所

愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室

## 3. 定員

各講座 50名

## 4. 内容

今年度の連続歴史講座のテーマは『モノの「形」の考古学』とした。埋蔵文化財の発掘調査で扱うさまざまな物質文化である「モノ」の形の変化から技術の変化、生活文化の向上、社会の変化などを講義する内容である。いずれの回も午前10時30分～正午に開催。参加費は無料。

|     | 日時       | タイトル          | 講師   | 参加人数 |
|-----|----------|---------------|------|------|
| 第1回 | 5月13日(土) | うつりかわる「鍋」の形   | 鈴木正貴 | 20人  |
| 第2回 | 5月27日(土) | うつりかわる「住まい」の形 | 永井邦仁 | 25人  |
| 第3回 | 6月10日(土) | うつりかわる「村」の形   | 鈴木正貴 | 27人  |
| 第4回 | 6月24日(土) | うつりかわる「墓」の形   | 早野浩二 | 29人  |

前年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講ずる必要があったため定員も半分となっていたが、今年度は、以前の定員に戻しての開催となった。各回とも講師への熱心な質問が見られた。(鬼頭 剛)





「連続歴史講座」チラシ

## 愛知県生涯学習推進センター協力講座

『令和5年度生涯学習あいち県民講座』の一環として、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座が開催された。今年度は3回で、いずれも室内講座と現地学習の組み合わせである。

## 【1】『あいちの遺跡を学ぼう「尾張平野のゲートウェイ」一色青海遺跡のすべて』

稲沢市の一色青海遺跡は弥生時代中期の集落で、彩色をほどこした鹿の絵画土器などの重要遺物が出

土している。また、三重県北中部の土器・石器や長野県～西三河地域特有の竪穴建物の炉があることから、尾張平野に西からの文化を受け入れこれを東へと伝えていくための「ゲートウェイ（玄関口）」のような存在と位置づけて、講義と現地学習を行った。定員は24名。

①講義 2023年7月19日（水）午後1時30分～3時 愛知県教育会館 3階教室  
「一色青海遺跡のすべて」 樋上昇 参加者17名

②現地学習 2023年7月26日（水）午後1時30分～2時30分 一色青海遺跡（日光川上流浄化センター内）  
「一色青海遺跡を見る」 鈴木恵介 参加者17名

【2】『あいちの遺跡を学ぼう 名古屋城「尾張名古屋は城で持つ」～最新調査成果から検証する～』

愛知県埋蔵文化財センターが行なった名古屋城三の丸遺跡の発掘調査成果をもとに戦国時代の城の構造や江戸時代の武家屋敷の様子を解説し、発掘調査中の名古屋城三の丸遺跡の様子を見学しながら江戸時代の名古屋城や戦国時代的那古野城についての最新の調査成果を紹介した。定員は24名。

①講義 2023年8月8日（火）午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室  
「名古屋城と武家屋敷」 鈴木正貴 参加者22名

②現地学習 2023年8月17日（木）午前9時30分～11時10分 本町門跡（集合）、  
名古屋城三の丸遺跡発掘現場、護国神社付近～本丸内施設へ（解散）  
「名古屋城武家屋敷地の発掘」 武部真木 参加者21名

【3】『あいちの遺跡を学ぼう 安城市鹿乗川流域遺跡群～三河の古墳時代社会をひらく～』

安城市東部の沖積低地は、「鹿乗川流域遺跡群」と呼ばれる弥生時代から古墳時代の集落遺跡が密集し、愛知県埋蔵文化財センターでは20年以上にわたって発掘調査を行ってきた。そして遺跡群背後の台地上には遺跡群と同時代の古墳群があり、集落と古墳の関係について注目される。講座3回と現地学習1回を行った。定員は24名。

①1日目（講義）2023年11月1日（水）午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室  
「鹿乗川流域遺跡群からみた桜井古墳群」 永井邦仁 参加者22名

②2日目（現地学習）2023年11月15日（水）午後1時30分～3時30分 名鉄桜井駅（集合）、  
桜井古墳群～鹿乗川流域遺跡群（亀塚遺跡・中狭間遺跡他）の約4kmの徒歩コース  
「鹿乗川流域遺跡群と桜井古墳群をめぐる」 永井邦仁・池本正明・河嶋優輝 参加者20名

③3日目（講義）2023年11月29日（水）午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室  
「亀塚遺跡にみるムラとモノ」 河嶋優輝 参加者17名

④4日目 講義 2023年12月13日（水）午後1時30分～3時15分  
「鹿乗川流域遺跡群にみる墓とまつり」 池本正明 参加者20名

（永井邦仁）

## 清須市文化財講座（協力講座）

清須市教育委員会が主催する「文化財講座」において、1回協力講座を行った。

日 時：2023年9月28日（木）午前10時00分～11時30分

場 所：清須市清洲市民センター

担当と題目：社本有弥「石器の見方とあいちの石器」

## 栄中日文化センター協力講座

栄中日文化センター（久屋中日ビル）において協力講座を行った。

### 【1】上半期のテーマ『中部発！弥生時代研究最前線』

日程：4月13日・6月6日・6月20日の3回、いずれも10:00～11:30

担当：永井宏幸

内容：「弥生時代の開始年代が500年さかのぼる」という2003年5月に日本考古学協会総会で国立歴史民俗博物館年代測定チームが行った研究発表は、当時の全国ニュースにも取り上げられ学会のみならず、社会でも大きな反響を呼んだ。その後20年経った現在、新たな弥生時代研究が蓄積されている。講座では愛知県を中心とした中部日本の調査研究から紹介した。

4月13日は「いままでの弥生時代像～朝日遺跡から振り返る～」として、朝日遺跡の発掘調査成果を中心に、この地域の弥生時代研究の成果を振り返った。6月6日は「弥生時代はなかった？」として、近年注目される研究成果をもとに改めて弥生時代の枠組みを紹介した。6月20日は「縄文文化と弥生文化再考」として、高度に発達したといわれる狩猟採集民の「縄文人」、灌漑設備を備えたコメづくり技術と文化を育んだ農耕民の「弥生人」へと移行する過程を「生まれは縄文、育ちは弥生」の視点から伊勢湾周辺の調査成果を紹介した

参加者は、第1回が15名、第2回と第3回が17名であった。

（永井宏幸）

### 【2】下半期のテーマ『考古学における自然科学の授業 あいち埋文・分析室だより』

日程：10月17日（火）・11月21日（火）・12月19日（火）の3回、いずれも10:00～11:30

担当：堀木真美子

内容：昆虫遺体の分析、珪藻・花粉分析、石材同定、樹種同定、骨の同定、蛍光X線分析など様々な自然科学分析の原理と事例の紹介し、簡単な実習を実施。また、愛知県埋蔵文化財センターがホームページなどで行っている情報公開の取り組みについても「情報」として紹介した。

10月17日は『考古学における自然科学の授業「生物」』として、自然環境復元のための分析事例として、「珪藻」・「花粉」の分析事例とその結果の解説を実施。昨今話題となった昆虫遺体分析を紹介。またカメや哺乳類の骨の同定や年齢推定のポイントを解説し、図面を見ながら、シカとイノシシの同定作業を実習。11月21日は『考古学における自然科学の授業「物理・化学」』として、レーダー探査、脂肪酸分析、同位体比分析等を紹介。埋蔵文化財センターで実施している蛍光X線分析の分析事例として、赤色顔料やガラス玉、埴塼の分析などを紹介し、X線のスペクトル解析の実習を行った。12月19日は『考古学における自然科学の授業「地学」「情報」』とし、石器によく使われる岩石の特徴を解説した後、石材サンプルの同定実習を行う。また埋蔵文化財センターの情報発信について解説し、奈良文化財センター等の最新の情報発信の状況も解説した。

参加者：10月17日：11名、11月21日：8名、12月19日：12名。

（堀木真美子）



## あいち考古学フェア 2023

概要：これまで考古学セミナー「あいちの考古学」として開催していたものを、今年度より「あいち考古学フェア 2023」と称し、考古学の研究ポスター・口頭発表を行う「考古学セミナー」と、考古学関連のワークショップを集めた「考古学フェア」の2本立てのイベントとして「考古学フェア」を開催した。

「考古学セミナー」では従来通り、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人(NPO)、研究グループ、関連企業などによる遺跡調査と、考古学に関する研究成果について広く一般に公開し情報を共有することを目的に開催した。ポスターの展示期間はほぼ3週間であった。

「考古学フェア」は、今年度初めて開催するものであり、考古学をより身近に感じていただくためのワークショップを集めたイベントである。会場は金山南ビル1階と11階の2か所であった。

【主 催】 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

公益財団法人名古屋まちづくり公社

【主 管】 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

【開催場所】 〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

【開催日時と場所・内容】

1 考古学セミナー（ポスター展示・シンポジウム・発表会）

1-1. ポスター展示

(1) 開催期日 令和5年11月7日(火)から11月26日(日)まで

(2) 開館時間等 火～金 10:00～18:00 土・日・祝 10:00～17:00 月曜日休館

(3) 会 場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場

(4) 観覧料等 無料

<< 口頭発表資料 >>

OP1「筑摩御厨跡遺跡で出土する東海地方の窯業製品(素描)」 中川 永(豊橋市美術館)・大西 遼(愛知県陶磁美術館)

OP2「愛知県豊田市舞木古窯の発掘調査」 秋松大允・井上隼多・早川紘布・張 睿帆(名古屋大学大学院人文学研究科)

OP3「古代の製塩実験 製塩体験からみえてきた古代人の苦労」 安城市教育委員会・西尾市教育委員会

OP4「名古屋市八事一堂跡出土陶器の再検討」 大西 遼(愛知県陶磁美術館)

OP5「瓦師から犬山焼窯元へ」 青木 修・佐久間真子・宮川菜々子・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟・井上あゆこ(犬山焼ミュージアム)

OP6「先史時代の行動復元3- 川向東貝津遺跡では、どんな安山岩・玄武岩が利用されているのか? -」 平井義敏・野村啓輔(東海石器研究会)

OP7「小牧市大山廃寺跡の再検討 -3次元測量調査成果-」 永井邦仁・河嶋優輝・大村 陸・鈴木悠介(大山廃寺検討会)

OP8「名古屋大学発!文化財3D データ配信用Web アプリ Culpticon(カルプティコン)で愛知の考古資料を楽しもう!!」

井上隼多(名古屋大学考古学研究室)・梅村綾子(名古屋大学博物館)・早川紘布(名古屋大学考古学研究室)

<< シンポジウム関連情報 >>

「シンポジウム 名古屋の城づくり、まちづくり」

「岩瀬文庫所蔵の「清洲図」について」 鈴木正貴

<< ポスター発表資料 >>

P09「犬山焼の獅子・狛犬の表現～瀬戸・美濃焼との比較から～」

青木 修・井上あゆこ・佐久間真子・宮川奈々子・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟(犬山焼ミュージアム)

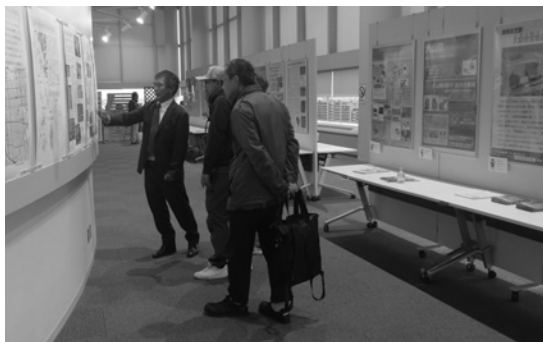
- P10「久留倍官衙遺跡を紹介しす ～活用と管理～」 大原涼子(四日市市シティプロモーション部文化課)
- P11「大府市 石丸遺跡発掘調査Ⅰ 成果報告」白樫 淳・島軒 満(株式会社アコード)・大府市歴史民俗資料館
- P12「松阪市粥見井尻遺跡の旧石器とその石材」 高木 康裕(株式会社パレオ・ラボ)
- P13「史跡 伊勢国分寺跡歴史公園へ行こう！」 吉田真由美(鈴鹿市考古博物館)
- P14「史跡船来山古墳群秋の特別開館・上保本郷遺跡展」 恩田知美(本巣市教育委員会)
- P15「姉小路氏城館跡の発掘調査 ～中世飛騨国でみる領域支配の変遷～」 三好清超(飛騨市教育委員会) P16「尾張名古屋博物館目録に描かれた考古遺物 - 木地枡を中心として -」 高尾将矢(株式会社ノガミ)
- P17「安城市亀塚遺跡でほぼ完形の竪櫛が出土」 河嶋優輝(愛知県埋蔵文化財センター)
- P18「愛知県内の受託発掘調査紹介」 山田哲也(株式会社イビソク)
- P19「岐阜県垂井町綾戸古墳の測量調査」若山鈴奈・桑山真里奈・小出一磨・高井英吉・高橋 杏・富田聖乃・村瀬稔治(名古屋大学文学部)
- P20「東海地域の特殊扁壺と三足壺について」 陳 永強(名古屋大学大学院人文科学研究科)
- P21「地域の考古学、そして地域との考古学」 上峯篤史(南山大学人文学部人類文化学科)
- P22「岐阜県下呂市『湯の平遺跡』2023 年度発掘調査概要」  
安達友隆・加藤智大・上野 楓・田中花香(南山大学人文学部人類文化学科)・  
中林大智・伊藤彩花(愛知学院大学文学部歴史学科)
- P23「静岡県木島遺跡出土品の再整理」  
上野 楓・加藤智大・安達友隆・田中花香・高本涼平・伊藤和香奈(南山大学人文学部人類文化学科) -
- P24「東海地方における特殊弥生土器の使用用途 - 円窓付土器を事例に -」 安達友隆(南山大学人文学部人類文化学科)
- P25「勝川遺跡出土木製品の工学的解析による用途推定」  
桃井宏和(公益財団法人元興寺文化財研究所)・久保光徳(千葉大学大学院)・  
高橋 敦(株式会社古生態研究所)

## 1-2. シンポジウム「名古屋の城づくり、まちづくり」

- (1) 開催期日 令和5年11月23日(木・祝)
- (2) 開催時間 午後1時から4時(開場:午後0時30分)
- (3) 会 場 名古屋都市センター 11 階 ホール 参加無料
- (4) 内 容

記念講演「名古屋の城づくり、まちづくり」 講師:服部英雄(名古屋城調査研究センター所長)  
 関連発表「清須の城づくり、まちづくり」 講師:鈴木正貴(愛知県埋蔵文化財センター)  
 座談会「名古屋の城づくり、まちづくり」 パネラー:服部英雄・鈴木正貴  
 司会:木村有作(愛知県埋蔵文化財調査センター)

- (5) 参加者数 91 名



考古学セミナー ポスター展示



考古学セミナー シンポジウム

### 1-3. 調査・研究発表会

- (1) 開催期日 令和5年11月11日(土)・12日(日)
- (2) 開催時間 午後1時から4時
- (3) 会場 名古屋都市センター 11階ホール  
(参加無料)
- (4) 内容 口頭発表 11日(OP1-OP4)・  
12日(OP5-OP8)
- (5) 参加者延べ数: 11日 182名 12日 152名

### 2. 考古学フェスタ

- (1) 開催期日 令和5年11月26日(日)
- (2) 開催時間 正午から4時(準備は午前10時から)
- (3) 会場 名古屋都市センター 11階ホール・  
金山南ビル 1F  
(参加無料、材料費は別途)
- (4) 内容及び参加者数 スタンブラリー配布数 109枚  
1F: かりうち(愛知埋文・奈良文化財研究所)  
立寄り 40名・体験 20名・チラシ配布 100名  
1F: 石器づくり(東海石器研究会) 174名  
11F: 金箔瓦づくり(愛知県埋蔵文化財センター)  
21名  
11F: プラバンづくり(鈴鹿市考古博物館)  
36名  
11F: こども学芸員(犬山焼ミュージアム)  
70名  
11F: ボールペンづくり(財団事務局企画推進課)  
27名  
(堀木真美子)



考古学フェスタのチラシ



考古学フェアのチラシ



考古学フェア 1階 かりうちブース



考古学フェア 11階 名古屋都市センターホール



## あいち埋文サポーターズクラブ

令和5年度から、愛知県埋蔵文化財センターの普及活動を外部からサポートしていただくための組織「あいち埋文サポーターズクラブ」を立ち上げた。年会費1,000円で、愛知県埋蔵文化財センターが企画する遺跡見学会やワークショップにご参加いただくとともに、将来的には普及活動のお手伝いもお願いすることを目的としている。

令和5年5月から募集を開始し、令和6年1月現在で、41名の方々に登録いただいている。

令和6年1月末までに、10回の例会を開催した。内訳は、遺跡見学会が7回、ワークショップが2回、イベント参加が1回である。

遺跡見学会は、一般向けに公開する地元説明会の直前に実施する内部の遺跡検討会（平日開催）に併せて行い、埋文センター職員による遺跡・遺構・遺物の検討を直にご覧いただくとともに、参加者からの質問も受け付けた。これは在職年数の少ない若手職員にとって、地元説明会の予行演習になるとともに、参加者からも臨場感のある見学会として好評を得ている。

ワークショップについては、『あいちの発掘調査2023』のシンポジウムに関連してパレススタイル壺の製作および焼成実験を実施した。来年度以降は、さらにワークショップの回数を増やしていきたいと考えている。

イベント参加は『あいちの考古学フェア2023』の「考古学フェスタ」のみだが、今後はイベントのお手伝いもお願いできるようにしていきたい。

(樋上 昇)

考古学フェア 11階 名古屋都市センターホール

| 日付       | イベント         | 参加者 |
|----------|--------------|-----|
| R.5.6.23 | 花の木遺跡見学会     | 7名  |
| R5.7.20  | 名古屋城三の丸遺跡見学会 | 6名  |
| R5.8.17  | 亀塚遺跡見学会      | 8名  |
| R5.8.21  | 一色青海遺跡見学会    | 10名 |
| R5.10.4  | パレス壺土器づくり1   | 5名  |
| R5.10.5  | 野添遺跡見学会      | 9名  |
| R5.11.26 | 考古学フェスタ      | 3名  |
| R5.12.7  | 中狭間遺跡見学会     | 8名  |
| R6.1.25  | 青山神明遺跡見学会    | 4名  |
| R6.1.26  | パレス壺土器づくり2   | 5名  |



一色青海遺跡見学会



パレス壺土器づくり



青山神明遺跡見学会